

1975年頃～ゴミ持ち帰り運動

ゴミとのイタチごっこは続きました。そんな中、地元の人たちは重大な決意をします。「登山者にゴミを持ち帰ってもらおう！」**1975年（昭和50年）頃**のことです。今でこそ「山でのゴミは持ち帰る」が常識になっていますが、当時としてはとても考えられないことだったのです。

山頂のビジターセンターからは放送で持ち帰りを呼びかけ、クレームも覚悟でゴミ箱を撤去しました。最初のうちはトラブルもありましたが、ゴミ持ち帰り運動は徐々に広まっていき、高尾山は再びクリーンな山に戻っていきました。



高尾山のゴミ持ち帰り運動のシンボル、おそうじ小僧。清滝駅前と山頂にある。

進む裸地化

この頃、ゴミだけでなくもう一つ大きな問題が進んでいました。多くの人々が訪れ、登山道外へ踏み出した結果、さまざまな場所の裸地化が進んだのです。特に山頂南側の斜面はひどく、管理している東京都は石垣や柵を整備することでこのエリアへの踏み出しを防止し、植生の回復を目指しました。



1986年（昭和61年）の山頂南側。多くの人々が立ち入ったため、植物はほとんど生えていない。



撮影の向きは違うが、左の写真と同じ場所の現在。多くの植物が戻ってきている。

2004年～東京都レンジャー

2004年（平成16年）、高尾の自然を守る仲間新たなメンバーが加わりました。東京都に地方自治体として初のレンジャー制度が発足し、最初のレンジャー3名が高尾に赴任したのです。

東京都レンジャーは、利用者へのマナー普及、希少な植物の盗掘監視、登山道や施設の応急補修などを行う専門の職員です。現在は多摩地域に16名、小笠原に9名の25名のレンジャーが、東京都の自然を守るために働いています。



東京都自然公園利用ルールについて、利用者に説明するレンジャー。まずはルールについて知ってもらうことが大切。



盗掘防止、保護の目的でレンジャーが希少種に取り付けているタグ。

現在、そしてこれから…

高尾山では現在5名の東京都レンジャーが、地元の方たち、多くのボランティア、地元自治体、国有林関係者たちなどと協力して、「より良い高尾山」を作るために活動しています。

しかし年間300万人もの人が訪れる高尾山には、登山道外への踏み出しや、希少な植物の盗掘など、まだ解決しなければならない問題があります。トイレ内へのゴミ置き去りなど、ゴミ問題も完全に解決したわけではありません。

今高尾山に遠足に来ている子ども達が大人になり、自分の子どもや孫を高尾山に連れてきた時、「ああ、昔と変わってないな」、「昔よりきれいになったな」と思ってもらえるよう、私たちは頑張っています。



ボランティア団体（東京都サポートレンジャー）との共同作業。登山道の整備などに、ボランティアの協力は欠かせない。



2015年（平成27年）に完成した高尾山山口駅新駅舎。隈研吾氏によるデザインで、スギ材を多く使用している。

もしもの時は…？ 管理番号票です！

東京都が設置している指導標や案内板などの施設には、右の写真のような「管理番号票」が取り付けられているものがあります。

登山中に山火事や山岳事故などを発見した時、どうすれば良いのでしょうか？ そんな時は、近くにある施設の管理番号を警察や消防に伝えてください。番号からすぐに場所を特定することができ、迅速な対応が可能です。

もしもの時の管理番号票、忘れないでください。



東京都レンジャーの業務

1. 観光客などへの利用マナーの普及、啓発
 2. 希少な動植物の密猟や盗掘の監視
 3. 利用者の安全確保のための遊歩道や案内板などの点検、応急補修
 4. 動植物の生息、生育状況など自然環境の継続的観測および監視
- その他、自然公園を訪れる皆様への自然解説、登山ルートや施設の案内

自然情報などの問い合わせ

高尾ビジターセンター	042-664-7872
奥多摩ビジターセンター	0428-83-2037
御岳ビジターセンター	0428-78-9363
小峰ビジターセンター	042-595-0400
山のふるさと村ビジターセンター	0428-86-2551